

平成25年度長崎県立北松西高等学校 学校自己評価【総括評価表】

教育方針 ◎ 明るく生き生きとした学校を創り、社会に貢献することのできる心身共に健全で調和のとれた豊かな人間の育成に努める。

努力目標 ◆ 生徒が学習を生活の中心に据え、自ら考え、積極的に行動ができる人材を育成する。
◆ 本年度の方向性「学力の向上」「生活力の向上」「家庭・地域との連携」を柱に、小中高一貫教育を推進する。

本年度の努力目標

(1)学力の充実と向上を図る。 (2)基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める。 (3)進路指導の充実を図る。 (4)小中高一貫教育の内容の充実を図る。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学校の組織的経営力の充実と向上	学校運営の円滑化	教務 学校運営の円滑化と、システム処理の整備及び教務内規の見直し	教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。 教務の計画を事前に示し、ミスがなければ「3」、1ヶ月前に提示できれば「4」	4	4	B	例年行われている行事及び行事要項の見直しを図ることができた。また、学力検査導入のため新たなAT体制づくりが求められているが、受験生が安心して受けることができるよう、適切な対応ができるようにしていきたい。
			教職員に役割が明確に伝わるように、わかりやすい実施要項を作成する。 役割が明確に伝わる要項であれば「3」	3	3		
			備品・消耗品・周辺機器の整備をする。 必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障を来さなければ「3」	3	3		
	広報活動の充実	教務 広報活動を充実させることで、地域、保護者、同窓会、小・中学校の理解と協力を得る。	「北松西高だより」の発行。 年5回発行すれば「3」(それ以上発行すれば4)	-	4	A	ウイークスは校内においては5名の先生方が授業を実施。参観者には授業アンケート用紙を作り、記入をしてもらうことを新たに実施した。Webページについては事務室の協力を得て、昨年以上の更新ができています。
			授業参観の実施。 ウイークスおよび公開授業あお実施し、各々10名以上の参観者があれば「3」(15名以上の参加で4)	4	4		
			webページの定期的な更新。 年2回更新すれば「3」(それ以上更新すれば4)	-	4		
	生徒及び教職員の健康の保持増進	保健部 生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。	定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。 受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。全員の提出があれば「4」	3	3	B	前期に引き続き各検診・職員健診ともに、計画通りスムーズに実施することができた。事後の受診率は昨年度よりも上がったが、報告書の回収が不十分であった。保健美化委員より「ほけんだより」を毎月配布、保健部より「臨時ほけんだより」を配布して情報提供を行うことができた。年間を通して保健室利用者は少なく、内科的訴えが9割以上。特に1学年の来室が目立った。
			健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。 計画どおり実施できれば「3」、問題解決につながるような援助ができれば「4」	3	3		
			健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行なう。 毎月・臨時の情報提供を行なったら「3」、計画どおり発行出来れば「4」	4	4		
	施設・設備の健康・安全対策	保健部事務部 生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める	保健部・学校薬剤師による環境安全点検(校舎内外)、安全衛生点検を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。 点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	薬剤師から指摘のあった水質検査については、本年度、事務部より業者に委託し、タンクの水質検査を実施していただいた。場所によって残留塩素の数値に違いがあるため、次年度工事の予定となっている。
掃除の徹底 清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」			4	4			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学校の組織的経営力の充実と向上	教育課程の充実	教務 進路目標や個の適正に応じた科目選択を目指す教育課程の作成	目標にあった特色ある教育課程を編成する。 年間計画通り教育課程委員会が開催できれば「3」	3	3	B	αクラスにおいては単位数を増やし指導を深めていく必要のある教科もある。ただし、その実施に踏み切れば併せてβクラスおよび1年生の教科についても見直しを図らなければならないという課題がでてくる。 例年1月の総合的な学習の時間は1・2年の三者面談のため予定していなかったが、本年度は実施をし、時間確保へと繋がった。進路指導部へ来年度からは移行をするが、本校は小中高一貫のグロー・遣未来の枠があり、純粋に「総学」「LHR」と区別できない面がある。今後も協力は惜しまずやっていきたい。
			生徒の志望進路達成に資する選択可能な講座を編成する。 年間計画通り、選択希望調査をおこなえば「3」	3	3		
	総合的な学習の時間の充実	教務 キャリア教育を柱とし、3カ年を見通した総合的な学習の時間の運営と内容の研究	キャリア教育を柱とした総合的な学習の時間の年間計画を立てる。 学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」	3	3	B	
			総合的な学習の時間を運営する。 円滑に実施できるように、実施計画を調整できれば、「3」	3	3		
今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。 担当者に今年度の反省をもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「3」	—	3					
多様な教育活動に対応した学校事務の推進	学校の窓口としての適切な対応	事務 外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。	適切な来客・電話対応 挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内を行うなど標準的な対応がスムーズにできれば「3」	3	3	B	窓口としての各種対応は概ね適切に行えた。 今期も、従来からの処理の根拠を再確認していくことに注意を払ってきた。今後も、教育活動の理解に基づく効果的執行をより意識していく必要がある。 毎月の詳細な定期点検は不完全であったが、随時の点検により修繕等の改善を行った。結果的には目的とする施設・設備の安全管理は確保できたが、次年度は、点検方法を実行可能で有効なものに改める必要がある。
			職員室との連携と適切な対応 内部の接点として職員室との連携を意識した、適切で迅速な対応ができれば「3」	3	3		
	適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	事務 法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。	適正な会計処理 規則等に則った適正で迅速な会計処理ができれば「3」	3	3	B	
			予算の効果的執行 教育活動の理解に基づく効果的執行を教員からの要望にきちんと対応できれば「3」	3	3		
	施設・設備の安全管理及び整備・充実	事務 ・学校生活における生徒の活動・行動についての状況把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理に努める。 ・教育活動の実態に基づき、より適正な施設・設備の整備に努めるとともに、将来を展望した長期計画の策定により、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。	校内巡視による実態把握 校内巡視による安全確認ができていれば「3」	3	3	B	
			突発的な破損・故障への迅速な対応 直ちに現場を確認し、対応策していれば「3」	3	3		
整備計画の策定 長・短期的視点からの整備計画策定の何らかの準備をしていれば「3」			3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学力の向上と充実を図る	基礎学力の定着の徹底	教務 基礎学力の徹底を図るとともに、主体的に家庭学習に取り組む態度を育てる。	考査前の西校朝学タイムの充実。 円滑に実施できれば、「3」	3	3	B	考査前および考査中の朝学タイムは、自主的な運用ができています。また、基礎学力の不十分な生徒への考査前の指導についても、昨年よりも該当者が減少した。該当生徒についても、考査前だけではなく、日常的に質問に来る姿が見受けられました。
			基礎学力の不十分な生徒への指導。 考査前の指導計画を立て、実施できれば、「3」	3	3		
	学力の向上	進路指導 計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。	補習に積極的に取り組ませる 怠惰による遅刻・欠席者がいなければ 4 5%増えることに評価を下げる	4	3	B	補習への参加状況は一部の生徒を除いて良好である。模試解説等も各教科で行っていただいている。自主学習については、できるようになった生徒とそうでない生徒の差が大きい。進路意識をさらに高め、自ら学習する習慣を育てていきたい。
			模試を有効に利用する 模試を計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。過去問や本試験の解説がなされていれば 4	4	4		
			自主学習力を育てる 家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。課題以外での自発的な学習が半数以上の生徒にみられれば 4	-	3		
	学力の充実と進路指導の徹底	1学年 学力の充実と向上を図る進路指導の徹底を通して、自己認識を高めさせ、各人の進路設計を確立する。	家庭学習の充実。 毎日2時間以上の家庭学習時間を確保する。 学習と生活の記録調査で50%いれば「3」	2	3	B	12月を例にとると、1日の学習時間が2時間を超えている生徒は全体の9割を超えていた。前期と比較すると、多くの生徒においては学習習慣が定着しつつあるように感じる。ただ、時間の使い方や学習方法については継続した指導が必要である。進路については、総合的な学習の時間を利用した調べ学習や、面談を通して大体の方向性は定まってきた。今後はHRや面談を利用して、生徒の進路意識の向上を図りたい。
			総合的な学習の時間の活用。 総合的な学習の時間を通して進路意識を高める。予定通り実施すれば「3」	3	3		
			個人面談の充実。 個人面談、家庭訪問を実施する。予定通り実施すれば「3」	3	3		
	学力の充実と進路指導の徹底	2学年 適切な時期に個別指導を重ねることで、自己実現に向けての考えを深めさせ、進路達成への取組の充実を目指す。	それぞれの生徒が置かれている状況とその特性や能力を把握する。 個人面談、家庭訪問をとおして各生徒を理解することができたか。	3	3	C	生徒の進路実現に向けて、2者面談や保護者面談などを通して話し合いを継続してきた。今年度はインターンシップもあり、より具体的に将来の自分について考える機会を提供することができた。しかし、進路に関してまだ何をしようかわからない生徒や、具体性に欠ける生徒がいるため、弾力的な進路研究の補助が必要である。家庭学習時間は少しずつ増えつつあるが、内容の充実を含め、今後も継続して指導していかなければならない。
			各生徒の学力や進路に応じた個人指導を実施する。 学力充実や進路実現のために添削指導や学習会などの具体的な指導を実施することができたか。	4	3		
家庭学習習慣の定着を図る。 毎日2時間以上の家庭学習時間を確保させることができたか。			3	2			
学習習慣の定着	3学年 学力の充実を図り、各自の進路希望の実現に向けて努力させる。	添削指導や補充指導を通して、個々の能力に応じた指導を行う。 個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の7割以上が判断すれば「3」	2	3	B	個に応じた添削指導や補充指導を行うことで、第1志望の志望先に合格することができた。進路先が決まった後も、考査の勉強や予習・復習を家庭で継続して行うことができた生徒が多かった。	
		家庭学習の習慣化を図る。 8割以上の生徒が、毎日一定時間の家庭学習の習慣がついているなら「4」	3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題		
				前期	後期	総合			
学力の向上と充実を図る	①学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	国語	授業計画について検討し、情報交換をする。	3	3	B	宇久高校における「離島地区教科指導力向上支援事業」などを通して、授業計画や学年・学級内の学力差対策について見識を深め、対策することが出来た。生徒の語彙力育成に有用な漢字検定について、人数不足により受検希望者が受検できない状況があり、生徒の学習意欲に応えられなかった。次年度以降漢字検定の実施方法について検討していきたい。		
		授業研究	学期に1回できれば「3」						
		段階的・系統的で分かりやすい授業を研究、実践する。	学年・学級内の学力差対策について検討し、情報を交換する。 学期に3回できれば「3」					3	3
			互いに授業を参観し合い、意見交換を行うことで指導力を向上させる。 学期に1回できれば「3」	2	3				
		国語	記述力養成のための指導を授業の中に取り入れる。	3	3			B	少年の主張については、一度提出させた後に、書き直しての再提出を生徒に課した。生徒にとっては負担が大きかったと思われるが、実践の中で自身の考えを深め、それを的確に表現する力が育成されたと考えられる。
		小論文指導	各クラスとも3回実施できれば「3」						
		生徒の書く力を育成する。	「少年の主張」を書かせる。 推敲によって内容が深まった者が7割いれば「3」	-	4				
		地理歴史	小テストの実施	3	3	B	小テスト・課題等計画的に実施することができた。小テストは実施方法等について、さらに工夫が必要である。また、βコースの課題も計画通りに実施できた。次年度の課題として、βコースの授業進度の確保が必要である。使用教材などを検証する必要がある。		
		基礎学力の充実	4回以上・・・4、3回・・・3 2回・・・2、1回・・・1						
		授業方法の研究、教材研究の充実によりわかりやすい授業を行う。また、小テストの実施し生徒の知識の定着を確認、授業に生かす。	3回以上・・・4、2回・・・3 1回・・・2、0回・・・1					3	4
		公民	新聞記事などを随時ピックアップして、生徒に配布する	3	3			B	班編成を工夫し、α・β混在の特徴を生かしたグループ活動などが実施できた。課題であった進学希望生徒の演習不足が解消できなかった。3年生については、演習時間を確保することで、2年生での演習不足に対応することができた。
		公民的資質の育成	3回以上/月・・・4、2回/月・・・3 1回/月・・・2、0回/月・・・1						
		時事問題に興味関心を持たせ、公民的資質を身につけさせる	授業の中で社会に関する時事問題を取り上げ、紹介・解説を行う 3回以上/月・・・4、2回/月・・・3 1回/月・・・2、0回/月・・・1						
		数学	生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。	3	3	B	課題については問題内容・問題量等考慮して計画的に指示し、ほとんどの生徒が取り組む事ができた。しかし、一部の生徒には課題に継続して取り組めない場面が見られた。今後も指導を継続したい。小テストや単元テスト、補充指導等を通して考查結果の目標は概ね達成できた。		
		数学への興味関心を喚起する	ほとんどの生徒が取り組んだら、「3」						
		自主的に家庭学習に取り組ませる。	定期考査前にしっかりと勉強させ、それぞれの目標以上の点数を取らせる。 ほとんどの生徒が目標以上の点数を取れたら、「3」						
数学	生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。	3	3	B	授業や課題の一部に校外模試や就職模試の過去問題などを取り込み、思考力を問うような発展的な内容を取り入れることはできた。一部生徒には取り組む過程が作業になってしまっている生徒がいる。根気強く指導していきたい。				
基本的な計算技術の習得と習熟および図形の基本的性質の理解	ほとんどの生徒が正解できたら、「3」								
四則演算、整式計算、様々な方程式を解けるようになる。角度・立体の体積や表面積をもとめることができる。円の性質を理解する。	就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。 ほとんどの生徒が取り組んだら、「3」							3	3

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	評 価			成 果 と 課 題		
				前期	後期	総合			
学 力 の 向 上 と 充 実 を 図 る	①学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	理科	生徒の実態に合わせ各授業での学習内容の精選を図る。	3	3	B	学習内容が質・量ともに増えたことにより、当初予想した通り進度の確保がなかなか難しい。基礎科目・専門科目で重複する内容もあり、次年度は今年の実践を踏まえ、また課題等うまく活用しながら、効果的な授業計画を練り直していく必要がある。入試科目も既に各大学で発表されており、生徒の進路希望に応じた授業、特に理科基礎2科目が必要となる国公立文系を目指す生徒へのフォローをどう行うかは今後検討していかなければならない。		
		毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。	単元ごとの学習内容を明確にし、受講生徒全員が授業内に内容を理解できたことを確認しながら授業を進めることができたか。					3	3
		3年間を見通した教育課程を考え、それぞれの学習計画を各単元ごとに十分な授業計画を練り授業に臨み、少人数の利点を発揮しながら個々の生徒の反応や理解度に対応した授業を展開する。	実験観察を積極的に行い興味・関心および理解を高める。 半期に 3回以上・・・「4」 2回・・・「3」 1回・・・「2」 0回・・・「1」						
	理科	週末課題を実施する。	4	4	B	少人数授業の特性を生かしながら、生徒の進路希望に応じた授業を実施することができた。中には、つまずきのある生徒もいるが、個別指導を実施することで基礎内容の定着を図ることができている。新課程になり授業進度を急がざるを得ないため、今後も課題を有効活用していかなければならない。これまで以上に質・量の吟味をし、取り組みが甘い生徒へは根気強く、きめ細かく指導して学習内容の定着を図ってきたい。			
	学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。	半期に 10回以上・・・「4」 7～9回・・・「3」 3～6回・・・「2」 3回未満・・・「1」							
	生徒の学力を正確に認識し、それぞれの弱点を克服できるような学習指導計画を立てる。また、進路決定時期に照準を合わせ必要な学力を身につけさせるための個別指導などを実施する。	小テストを実施する。 1単元 3回以上・・・「4」 2回・・・「3」 1回・・・「2」 0回・・・「1」	3	3					
		つまずきのある生徒の習熟度と進路目標に合わせた指導をする。 個別の指導を充実させ、定期試験や校外模試などでそれぞれの生徒の目標とする結果を達成させることができたか。							
	保健体育	生徒が積極的に集団行動に取り組む。	4	4	B	生涯スポーツを見通した授業作りにおいて、1、2年生はグループでの練習計画、試合運営など、主体的に進めるのは難しかった。体育的行事においては、生徒が積極的に参加し、自主的に取り組み、とてもよい成果を収めることができた。			
	授業や体育的行事において、集団行動を常に心がけ生徒が積極的に取り組む態度を育む	体育委員会を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。							
	集団行動の定着	生涯スポーツを見通した授業づくり。	3	3					
		各領域において基礎基本を身につけ、グループで計画的に練習に取り組んでいるか。							
	保健体育	中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。	3	-					
		中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。							
	保健体育	新体力テストを実施する。	3	-	B	体力テストの結果、持久力は全国の平均を大きく上回ったが、柔軟性に課題のある生徒が多かった。定期的な長座体前屈測定の結果1、2年生は平均2.3cm伸びたが、3年生は1月の測定で4月の測定値を下回った。体ほぐし運動や柔軟運動は継続的に続けていき、今後も基礎運動能力の向上を目指したい。			
新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。	新体力テストを5月までに実施し、95%以上の生徒が実施できた「3」								
新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。	新体力テスト結果の活用。	4	-						
	テスト結果を得点化し、成績に反映させ、生徒へ的確に情報提供を行う。								
	体ほぐし運動と、毎月1回の長座前屈の計測。	3	3						
	全生徒平均が2～3cm伸びたら「4」								

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				前期	後期	総合		
学力の向上と充実を図る	①学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	芸術科	小集団での活動の実践	3	3	B	1学年では、3人グループでの楽器の演奏や創作活動のなかで、他のグループの演奏を参考にしながらより良い演奏を目指す姿勢が見られた。音楽に対して苦手意識を持つ生徒も、少しではあるが演奏に積極的であった。全体での活動においても個人個人がより積極的に活動できるようにすることが今後の課題である。	
		協同的な学びの実現	3~4名の小グループによる活動を取り入れ、生徒同士の学びあう関わりが築かれた。					
		学び合う関係、学びの場としての教室の雰囲気構築する。	「聴きあう」場の創出 発表などを通じて、相互に聴きあう関係が築かれた。	3	4			
		芸術科	小視唱、聴音や譜読みの時間を設ける	2	2	C		毎回実施することができなかった。今後は回数を増やすことも必要であるが、読譜力向上のための教材開発にも努めていきたい。
		生徒の主体的音楽表現能力の育成 読譜力の向上と音楽的基礎知識の定着	小テストを随時行う	2	3			
		芸術科	個別または小集団での実技試験の実施	3	4	B		発表会で、互いに聴き合い、具体的に批評する活動を通して、鑑賞活動や表現活動に意欲的になった。
		生徒の主体的音楽表現力育成	実施できれば「3」					
		生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な表現能力の育成を目指す。	様々なジャンルの音楽に触れる機会を作る。	3	3			
		英語	公開授業・研究授業の実施。	3	4	B	本年度小・中・高で計4回の研究授業を実施し、授業研究を重ねることができた。1年生のコミュニケーション英語(3単位)と2年生αクラスの英語Ⅱ(3単位)ではALTとのTTにより、授業内での発言も英語で行えるようになってきた。ただし、まだ発言の機会・量ともに少なく、授業の組み立て方の工夫が必要である。ALTとの授業がないクラスについては、ALTと一緒に昼食をとってコミュニケーションを図るなどの場を提供し、楽しんで英語を使う場を提供できたのはよかった。	
		ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。	研究授業ウイークス等を利用して実施し授業力の向上に努める。3回以上実施できれば「4」					
		授業方向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場面を増やす。	ALTとのTTにより英語に触れ合う機会を増やす。 TT授業を週1回以上実施しかつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」	3	3			
		英語	予習の徹底。	4	4	B	予習に関してはほぼ100%定着している状況である。ただ内容に関して生徒によってまちまちであるため、個別に指導が必要な生徒もいる。提出物に関しても同様で、提出日が守れてもただやればよいという姿勢が拭えない生徒について、授業と家庭学習の関連性を理解させながら、定着させていくように粘り強い指導が必要である。	
		基礎学力の定着	授業開始前に予習の確認を行う。9割の生徒が予習を行っていたら「4」					
		英語に関する基本的な知識の習得。	各種テストのやり直しノートの提出。 確実に提出させる。7割以上の生徒が毎回確実に提出したら「3」	3	3			
		英語	進路目標に応じた英語指導の充実を図る。	4	4	B	新課程が始まった1学年では、教科書も授業もほとんどが英語で行われる活動に対して、一生懸命に理解し、英語での応答にも挑戦している。2学年でも同様に英語Ⅱαでは英語での授業を行っているが、積極的に取り組んでいる。定期考査や模試を通じて、文法・語法の理解・定着がまだできていないところは復習を行った。語彙力に関しては絶対的に不足しているため、長文読解を通して語彙力の強化が必要である。	
		生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める。	考査や模擬試験の結果を分析、指導に反映させる。効果的な指導ができれば「4」					
生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める。	自己学習能力の高揚を図る。音読を中心に正しい発音・アクセント・イントネーションの指導。 ディクテーションやフライト・リピーティングの効果的な利用で英語力の向上を図る。7割の生徒が英文を正しく読むことができれば「3」	3	3					
家庭	保育実習の実践	—	4	B	保育実習では、準備・当日ともに積極的に実習を行うことができていた。1学年、3学年は全員が被服製作の作品を完成させることができ、文化祭で展示することができた。3学年では栄養を考えた献立のお弁当作りの実習を行うことができた。			
家庭生活を営むために必要な能力を身に着ける	乳幼児ふれあい体感を通して、男女協力して家庭や地域の生活を創造するための知識と技術を習得させる。効果的な指導・体験実習ができれば「4」							
生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。	実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実 効果的な指導ができれば「3」	3	3					
	調理の工夫と実践	3	3					
	安全に配慮し、効果的な調理実習ができれば「3」							

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める	基本的な生活習慣を身に付けさせる	生徒指導 集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	身なりの端正化 指導されなくても自ら整える姿勢を養う。毎月の服装頭髪検査で8割以上が合格なら「3」	3	3	B	服装頭髪検査の後期(1月まで)合格率は平均89%であった。不合格生徒にあっても大きな乱れはなく、全体的に身なりを正すことへの意識は高いと言える。また、検査前に風紀委員が呼びかけをするなど、生徒が主体的に取り組む機会を設けることもできた。今後も西高生らしい爽やかさを維持できるよう、日頃から働きかけていきたい。
			さわやかな挨拶の励行 風紀委員を中心に挨拶運動を実施。年に5回以上実施できれば「3」	3	3		
			時間の厳守 指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各行事5分前行動ができれば「3」	3	3		
	交通マナーの遵守を徹底させる	生徒指導 自転車乗車マナーの向上	自転車整備の徹底 整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が8割以上で「3」	2	3	B	2・3学期の自転車点検の合格率は90.3%であった。不合格者も速やかに整備をしており概ね良好である。駐輪場も整理できている。道路交通法の改正を紹介・掲示して周知に努め、並走などを見かけたらその都度注意して乗車マナーの向上を図った。しかし、目の届かないところもあるので、今後も安全教育を進めていき、生徒自らが安全運転を心がけることができるようにしていく。
			全校集会などで自転車乗車マナーを指導する。 夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」	3	3		
			駐輪場の整理整頓 全車、駐輪場の車止めに停車させる。毎月の駐輪場点検が実施できれば「3」	3	3		
	学校、保護者、地域社会との連携	生徒指導 保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	保護者・地域との連携 情報を共有し、生徒の健全育成に努める。健全育成保護者会を年に1回実施できれば「3」	3	3	B	保護者・地域との連携は概ね取れたと思う。携帯電話の危険性についても、生徒・保護者に対して啓発することができた。本校生徒の携帯電話所持率は31.6%(10月現在)で、県内の高校に比べ所持率はかなり低い。しかし、携帯電話を介した問題事案は県内でも多発しており、予防のためにも携帯電話の正しい使い方と危険性について生徒・保護者に周知していかねばならない。
			職員間の連携 問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」	3	3		
			携帯電話の危険性の啓発 携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」	3	3		
	生徒の自治的活動の活性化	生徒会 活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	学校行事への積極的参加 各行事で生徒が主体的に企画・運営に関わる生徒主体となるよう生徒会の活動を支援できれば「3」	3	3	B	学校行事、委員会活動ともに活発に活動できている。今後も積極的に取り組む姿勢を培っていきたいが、生徒数減少に伴い生徒一人一人にかかる負担が増加していることも気にかかる。行事の企画・運営方法、委員会の在り方については今後検討していく必要がある。
各専門委員会活動の活性化 各委員会で努力目標を設定し、それを達成する。問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養う。			3	3			
人間尊重の精神を養う	生徒会 体育部・文化部が充実した活動ができるよう、積極的に支援する。	部活動全員加入。心身共に成長できるよう支援する。 全校生徒が部活動に所属すれば「3」	3	3	B	どの部活動も大変熱心に活動している。生徒はもちろんのこと、顧問の先生方のご尽力のお陰と感謝している。しかし、年々生徒数が減少しており、大会出場ができない部活動も出てきている。今後は中学校とも連携していきながら、部員数の変動を把握するとともに部活動の在り方を検討していきたい。	
		部顧問会の実施。情報交換および部活動規定の見直しを行う。 部顧問会を年に1回実施できれば「3」	3	3			
問題を抱える生徒の早期発見と対処	保健部【教育相談】 学年及び分掌との連携を密にし、生徒の持つ問題点や悩みの解消に努める	担任との情報交換、諸検査の活用で問題を抱える生徒を早期発見する。 問題を抱える生徒を早期発見し、早急に対応する事ができたら、「4」	4	4	B	定期的、継続的にカウンセラー室を利用する生徒はいなかったが、悩みを抱え精神的に不安定になる生徒、声掛けや観察が必要な生徒は2～3名いた。数名の生徒に対しては養護教諭の協力で個人面談を行い、担任と情報を共有することができた。面談内容などの情報は記録データにまとめて来年に引継ぎようにしたい。	
		学年・保健室と連携し、問題を抱える生徒のカウンセラー活動を行う。 学年・保健室と密に連携し、生徒の実態をまとめ情報を共有することができたら、「4」	3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
基本的 生活習慣 の確立を 図り、 規範意識 の高揚に 努める	生徒の意識と実態の把握	保健部【教育相談】 機会をとらえて生徒の実状をつかみ、効果的な指導を行う	諸検査・各種調査を実施し生徒の実態をつかむ。 計画通りに諸検査・各調査を実施し、その結果の報告を行うと「4」	4	4	B	いじめ、悩み調査では、携帯電話LINEを介した人間関係のトラブルに発展しそうな事案が表出したが、生徒指導部や担任と連携し、悪化する前に食い止めることができた。悩みをもつ数名の生徒に対しては養護教諭の協力で個人面談を行い、担任と情報を共有することができた。様子観察が必要な生徒がいるが、継続して担任と連携を取り、教育相談委員会が必要な場合は早急に対応していきたい。
			個人面談や問題を抱える生徒との面談を行う。 個人面談やカウンセリング活動を実施したら「4」	3	4		
			諸検査・各種調査の有効的な活用をはかる。 諸検査の見方・考え方や各調査の分析結果を全職員で研修できたら「4」	3	3		
	特別支援教育に関する研究および実態把握	保健部【特別支援】 特別支援教育について教員の研修に努めるとともに、特別支援を必要とする生徒の実態把握に努める	特別支援教育に関する職員研修の実施 職員の意識調査と特別支援教育に関する情報提供を実施したら「4」	3	3	B	今年度は特別支援教育に関する職員研修は実施しなかったが、今年度本校に駐在している特別支援専門の先生に直接相談をしたり、アドバイスをいただいたりすることができた。特別な支援が必要な生徒の個別の教育支援計画、指導計画作成については、様式などのマニュアルを確定し、今後必要な場合は作成をしていくようにしたい。
			特別支援教育を必要とする生徒の実態把握 職員会議などで、職員全体に特別支援教育を必要とする生徒の実態把握をうながしたら「3」	3	3		
	自律の精神をもち、学校生活に積極的に臨む姿勢を確立する	1学年 礼節・容儀・環境美化の大切さを自覚させ、基本的な生活習慣の定着を目指す。	端正な服装・頭髪への心がけをもたせる。 服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。 9割の生徒が合格すれば「3」	3	2	C	一部男子生徒に、服装頭髪検査において続けて違反する生徒が見られた。また、遅刻常習者が数名おり、時間を遵守する姿勢を今後も継続して指導しなければならない。手帳を活用しながら、自己管理能力をもっと高めさせたい。挨拶や清掃活動については、全員が積極的に取り組んでいる。
			挨拶の励行。 積極的に挨拶を行う。 日常的に挨拶を行う姿勢があれば「3」	3	3		
			清掃活動への積極的な取り組みをうながす。 清掃活動に対し積極的に取り組む。 8割以上の生徒が取り組めば「3」	3	3		
	集団の中の「個」としての積極的な行動	1学年 学級活動・部活動・学校行事等への積極的な参加により、協調性・自主自律の態度を養わせる。	学級活動への積極的な参加。 ホームルーム活動に積極的に参加している。 各係活動が日常的に機能していれば「3」	3	3	B	HR活動では委員会や各教科係など、責任を持って自分の仕事を果たしている。また、体育祭や西高祭などの学校行事では、クラス全員が様々な場面で積極的に取り組む様子が見られた。特に西高祭においては、1人1人が自分の役割をよく果たし、互いに協力し合うことで展示・ステージ発表の成功に繋げることができた。
総合的な学習の時間の活用。 生徒が積極的に参加している。 日常的に8割の生徒が活動していれば「3」			3	4			
学校行事への積極的な参加。 積極的に参加し各学年と協力できた。 協力的な姿勢が見られたら「3」			3	4			
学校生活でのルールや時間を守る指導の徹底	2学年 挨拶・時間・環境美化の大切さを自覚させ、基本的な生活習慣の確立を目指す。	挨拶の励行 授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をする。 日常的な場面においても自ら挨拶ができれば、「4」	4	4	B	朝のあいさつや校舎内でずれ違う時のあいさつなどは、生徒から教師に対してだけでなく、上級生に対しても積極的におこなわれている。遅刻・欠席に関しては少なくなった。時間を見て自主的に行動する習慣もついてきている。提出物に関しては、期限内に提出できない生徒が減少しつつある。今後も継続して指導をしていく必要がある。	
		人と接するときのマナーの向上 目上の人と接するときの言葉遣いや態度が身についているか、また決められた時間を見越した行動ができていくか。	3	3			
		時間の厳守 登校時、始業時の遅刻が0である。 自主的に時間を見て行動できたら「4」	3	4			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
揚を基に図本的な努力、生活規範意識の確立	基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度	3学年 基本的な生活習慣を身につかせ、社会に対応できる人物の育成をめざす。	安易な欠席をしないよう指導する。 月間の遅刻・欠席者がクラスの10%以下であれば「4」	4	4	A	体調管理の徹底を行った結果、全体で100%近くの出席率だった。1組の出席率は100%であった。服装や頭髮の検査で再検査する生徒も少なく、自覚して学校生活を送っている様子が伺えた。
			社会生活に対応できる容儀の指導を行う。 毎月1回服装検査を実施し、90%以上の生徒が検査項目を守っているなら「4」	4	4		
進路指導の充実を図る	進路意識の向上・進路実現	進路指導 将来の職業意識を持たせ、生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。	進路講演会の実施 専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施する。生徒の満足度が高ければ 4	4	4	B	進路に関する講演を通して、進路意識を向上させることができたと感じている。これを習慣化させるためにさらに働きかけを強めていきたい。また、インターンシップを通して職業意識やキャリアに対する認識を深めることができた。進路検討会で検討した内容を、うまく生徒に働きかけ、目標を早期に設定できるよう支援していかなければならない。
			進路検討会の実施 進路検討会・学力検討会の結果を基にそれぞれの生徒に適切な進路指導ができれば 4	4	3		
			インターンシップの実施 積極的にインターンシップに参加させ社会性や職業観を養う。生徒の満足度が高ければ 4	-	3		
	進路希望の実現	3学年 個々の進路目標を明確にし、進路達成に向けての取り組みを充実させる。	生徒が必要とする情報を適宜提供し、進路意識の向上を図る。 8割以上の生徒が具体的な進路目標をもつことができれば「3」 個人面談・三者面談を実施し、家庭と学校との共通理解のもと進路指導を行う。 各学期2回以上面談が実施できれば「3」	3	4	A	保護者や職員と話し合いを徹底的に行い、生徒の志望する進路先に合格することができた。生徒が求める情報をこまめに提供することができた。
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の推進	教務 小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。	小中高一貫教育に関する会議日を設定する。 毎月1度「小中高会議日」を設定できれば「3」	3	3	B	教務主任における小中高の会議は定期的に行われ、早めの早めの調整・情報交換ができています。学力検査を導入した入試になるためオープンスクールや9月の説明会を例年より早めに実施をした。特に混乱もなく、冷静に受け止めてもらえる説明ができたと思われる。
			オープンスクールや入試説明会を実施する。 中学校・中学生・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」	3	3		
	学校行事におけるリーダーシップの発揮	3学年 最高学年としての自覚を促し、学校行事においてリーダーシップを発揮させる。	学校行事や部活動を通して、リーダーシップの発揮を促す。 行事に積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと、教員の7割以上が判断すれば「3」	3	4	B	多くの行事や生徒会活動で、リーダーシップを発揮し下級生に対して指導をすることができた。1年次よりも大きく進歩した様子が伺えた。
	小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育の推進	2学年 中堅学年としての自覚を持たせ、地域に開かれた明るい校風の樹立を目指すように指導する。	学級活動への積極的な参加を図る。 クラス委員や係・清掃・その他の学級活動に積極的に参加していたか。 部活動への積極的な参加を図る。 日常的に90%の生徒が積極的な活動ができていたか。 学校行事への積極的な参加を図る。 積極的に参加し各学年や小中学生と協力できたか。	4	4	A	クラスでの委員・係活動、清掃活動においても、学校内の生徒会活動や専門委員の活動にしても、積極的に参加・行動し、円滑な学校生活を過ごしている。小中高での行事や集会の際にも、自らが率先して面倒を見て、リーダーシップを計る生徒が多い。今後は、さらに多くの生徒が積極的に意見を出し、率先して行動に移すように促していきたい。
小中高一貫教育	国語 小中高職員で協力し、継続的な指導の研究を行う。	公開授業を実施し、意見交換を行う。 年に1回以上実施できれば「3」	2	4	B	中学校における研究授業を参観した。また、指導案検討や研究授業後の意見交換会において、各校種の現状について理解を深めることが出来た。	
		各校種の現状について、情報を交換する。 年に1回以上実施できれば「3」	2	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題		
				前期	後期	総合			
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を進める。	理科 小中高の職員で学習内容や行事・地域での活動などを精選する、また教育課程の見直しも含めて十分な検討をする。	小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。 情報交換と学習内容検討の場を各学期に1回はもつ。	4	4	C	授業参観や教材研究を通して、各校種における指導法や、児童・生徒の発達段階を確認することができた。また、科学的に考察する力を養うための授業の在り方について、協議を深めることもできた。異校種の教員が集まり意見交換することで視野も広がり、教科内容の捉え方、指導の観点・方法など新たな発見もあり、双方で刺激し合うことができた。今年度作成した小中高の生物分野における実験リストは、今後の授業計画を立てていく上で、大いに役立つくれると思う。次年度は物理分野において、同様の研究・協議を続けていきたい。		
			シラバスを作成し、計画に基づいて実施する。 シラバスを作成し、ほぼ計画通り実施・・・「4」 シラバスを作成し、7割程度実施・・・「3」 シラバスを作成したが実施できなかった・・・「2」 シラバスを作成しなかった・・・「1」	3	3				
			公開授業の実施 小中学校理科担当も参加し、2人とも年1回以上「4」 2人とも年1回以上.....「3」 1人のみ年1回以上.....「2」 全く実施されず.....「1」	—	2				
	郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる	家庭 地域保護者との連携を深め、郷土について学習する機会を作ることにより、郷土についての知識と愛着を深める。	地場産物を使った調理実習を行う。 1回の調理実習で、小値賀産の食材を2種類以上使用できたら「3」	3	4			B	中学校では、地元の食材について調べ学習を行うことができた。郷土料理教室では地元の魚や野菜を使用することができ、地域の方々に協力していただいて、郷土料理を完成することができた。
			小値賀の特産品や農作物を知る。 調べ学習を行い、小値賀の特産品や農作物についてまとめることができたなら「3」	—	3				
			郷土料理教室の実施。 地場産物を用いて、郷土料理を完成させることができたなら「3」	—	4				
小中高間での連携の活発化	家庭 共同の授業研究を行い、小中高れ連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。	共同の授業研究 1時間以上の授業研究会を3回開催することができたなら「3」	2	3	C	授業研究以外にも、快適な授業を行うための空間作りとして、被服室・調理室などの備品整理なども行うことができた。今年度のテーマにそった授業研究を行うことができたが、アンケートを取るなどのデータの蓄積が行えなかったため、今後の課題とした。			
		教材・授業案の蓄積、共有化 年間を通して、新たに試みられた授業内容の授業案化、データ化、教材の蓄積ができたなら「3」	3	2					